

8-4-27 社会マネジメント技術委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

令和6年度は、社会マネジメント技術委員会を7月に開催した。

社会マネジメント技術委員会を開催しない月においてはメール等を活用し、後述する上位委員会から依頼される検討事項や傘下の専門委員会に関する情報交換を実施した。

(2) 専門委員会の事業内容等について

本技術委員会傘下の専門委員会における令和6年度の主な活動内容等について以下に示す。

a) 都市計画専門委員会：今年度はWeb形式やメールでのやり取りにより実施した、①毎年継続実施しているRCCM教材作成は都市計画関連制度の動向に合わせて随時改定を実施、②「都市計画講習会」の令和6年度開催は諸事情により見送りとした。

b) 参加型計画専門委員会：令和6年度に専門委員会を10回、講習会1回、勉強会3回開催した。①7月と11月の2回、現地視察や意見交換などを含めた勉強会を実施、②1月には①の成果を紹介すると共に、山古志住民会議の代表である竹内氏らにご講演いただき、参加型計画の今後展開、建設コンサルタントに求められる技術と役割について、意見交換を行った（Web開催で約100名が参加した）。

c) 政策・事業評価専門委員会：令和6年度に専門委員会を5回、セミナー1回、現地視察2回、勉強会1回を開催した。①現地視察は計2回実施、5月に「宇都宮LRT」、10月に「ウォーカブルなまちづくり」などの取組みを有する仙台市、②12月に「災害に備えた都市政策におけるコンサルタントの役割～交通と流域マネジメントの観点から～」と題したセミナーを開催（Webでの参加者186名）した。

d) 環境専門委員会：①RCCM建設環境分野の教材作成などの改訂作業を継承実施、②11/11～12の2日間、広島県広島市において「カーボ

ンリサイクルの全体構想や最新動向等」について講演会と現地見学会を開催、③最新技術情報、話題性の高い事項の勉強会を計6回実施（外部講師を招いた勉強会を含む）。

e) 施工管理専門委員会：①継続実施のRCCM教材を作成、②令和5年度に会員各社が受注した施工管理業務の実態についてアンケート調査を実施し、契約内容、職場環境等の調査を行い報告書として取りまとめた。

f) 国土情報専門委員会：令和6年度に専門委員会を6回、行政関係者との意見交換5回を開催した。①流域全体で水害を軽減させるための流域情報基盤の検討結果を次世代型流域治水に向けとして提言書に取りまとめ、②この提言に関して有識者や行政機関と連携して実フィールドでの試行を実施した。

g) 自動運転WG：WGを6回開催した。①調査研究テーマ（国の政策や車両等の動向、道路空間等の動向、まちづくり・公共交通との関係、制度設計の動向、地域実装・提供サービスの動向等）について情報の収集・整理を行った、②自動運転バス社会実装の先進事例である石川県小松市等の視察をWGメンバーにて行い、結果を取りまとめた。

(3) 個別検討テーマへの対応

統括技術委員会等からの当委員会への依頼事項での主な検討内容である、「DXテーマ3：街・地域づくりのDX推進（エリアマネジメントに資するDX）」に関して、令和3年度～6年度の総括を取りまとめた。

2. 次年度の活動について

社会マネジメント技術委員会として、令和元年度から始まった本事業を引き続き実施する。

(1) 事業計画に基づく技術委員会の定例的活動

(2) 委員会が対応すべき分野横断的な諸テーマの検討、特に技術部会や統括技術委員会等から依頼される各種検討事項等への対応

（社会マネジメント技術委員会委員長 篠崎 毅）